

令和6年度 第1回 大阪府立茨田高等学校学校運営協議会

令和6年6月27日（木）15：30～

大阪府立茨田高等学校 会議室

協議委員

協議委員：川村幸治、早坂三郎、寺野雅之、渡邊哲朗、綿世良一、村井沢子

学校：松井くみ子（校長）、紙本享介（教頭）、西岡宏二（事務長）、

西本敦史（首席）、野崎龍（首席）、木原義憲（指導教諭）

欠席：寺野雅之

記録：西本敦史

議題「茨田高等学校の最終年度について」

1. あいさつ・自己紹介

2. 学校経営計画及び本校の現状報告（校長より）

*茨田高校の最後の目標は、全員進路を決定して卒業させること。

*生徒は素直で授業を積極的に受ける姿が見受けられる。

*学校としての課題は、欠席が多いこと。（不登校(欠席10日以上)生徒の36%が該当）

出席を促す試みとして、学校生活を楽しいものとしてイベントデイを実施、安心な場所と人間関係の構築を念頭においた、「居場所と時間を共有できる場」として茨田リビングを開室するなど、様々取り組んでいる。

*学校経営計画について

- ・ 中期目標1の「学力の向上」に関連して、電子黒板の活用について教職員研修を計画している。既に、授業では効果的に活用されているところもある。広げていきたい。

- ・ 中期目標2の「より良い人間関係づくりができる学校文化の創出」に関連しては、生徒会にイベントを多く企画してもらうことや、居場所カフェ事業と茨田リビングで「居場所と時間を共有する」「生徒それぞれが自由に過ごせる場所」として実施している。生徒会企画である「イベントデイ」には多くの生徒が参加してくれ、楽しんでもくれている。当初の予想よりも生徒は意外と乗ってきてくれたように思う。4月当初にお花見・歌詠み、スポーツ企画、5月端午の節句・鯉のぼり、6月アウトドア（野営）調理体験（メスティン体験）などを実施した。以前に学校運営協議会でご意見をいただいた、“特定の部活の活動ではなく、単発イベントをたくさんうっていく方向性”が嵌っているのではないかと感じる。現在、秋の「焼き芋」に向けて中庭でさつまいもを栽培している。これは、地域のお花屋さん（卒業生）の協力をいただいた。

イベント自体に多くの人に関わることを意識している。居場所カフェ・茨田リビングは、生徒が毎回・毎日たくさん集まっている。また、災害時の避難所における共同生活体験を企画している。

- ・ 中期目標3の「地域連携の推進」に関連して、地域の人と楽しむ学校と設定した。6月13日に、コミュニケーションコース科目「実演表現」において、保育園を訪問して歌や踊り劇などを披露した。生徒は子どもたちから大人気で学びも多かった様子だった。
また、学校設定科目「生活実践」の授業で、障がい理解の体験活動を実施。講師に来ていただいて、視覚障がい者体験、車椅子バスケット体験した。
閉校ということもあって、同窓生のイベントを開催している。6月29日に同窓会総会と併せて茨田高校ツアーを予定。
50周年事業は、式典、祝賀会を企画している。（12月7日）
卒業式と閉校式典は同日に開催（3月1日（土））する。
- ・ 中期目標4の「校務の効率化で働き方改革の推進」に関連して、デジタル採点は昨年から実施、また、会議の改編で校務効率化を図り、働き方改革を推進していく。

4. 協議

議長：川村幸治氏

議長

校長の計画を支持する。あとは、生徒たちにどう楽しんでもらうか、生徒の思い出に残る最終年にできるかだと思います。

協議委員

どう有意義に楽しくするか、卒業後の進路に向けた準備をどれだけできるかが大切。データ（希望や効果測定）を取りながらオンデマンドの企画をしていくのもまだまだ余地はあると思います。オンライン授業のような企画ができれば、生徒たちが今後社会に出てからも役に立つのではないかと。

協議委員

生徒たちは、半年後には社会人となる。「社会に出て何ができるのか」「自分は何をしたいのか」を、先生も一緒に考えてあげてほしい。人も含めて地域資源（大阪府内）はまだまだ発掘できる。生徒たちが何を望むかを一緒に考えていく中で、地域資源をどんどん活用してほしい。

議長

先生たちがいろんなアイデアを出してさまざま企画していくなかで、先生たちの一体感はいかほどなのか。（教員への質問）

教職員

全員が全員積極的に一体感をもっているわけではないかもしれないが、基本的には結束力をもってやっている。参加しない生徒もいないわけではない。

議長

参加しない生徒に対しては、生徒自身が内面から揺さぶることも必要か。

協議委員

生徒は楽しそうにしていると思う。人間の集まりなので、全員が同じ気持ちで楽しめないことも十分あり得る。高校生活を送る中で、それぞれの生徒どうしでいざこざもありながら、解決したり、ちょうどよい人間関係を模索したりしながら、成長している。人間関係づくりの力がついているように感じる。

教職員

生徒に目が行き届く状況があり、それが非常にいい影響となっていると感じる。生徒は全員顔と名前が一致する。居場所カフェ・茨田リビングなどでも自然に会話することができ、生徒と教員のいい関係性ができていると感じる。

協議委員

人は言葉で育つ。「私はこうなりたい」などを生徒自身に宣言させるような取り組みをしようか。（例：書道的な書き物など）「茨田高校ありがとう」でもいい。生徒自身が、茨田高校の最後に向けて気持ちを表現することで、より充実感につながるのではないか。

茨田から外へ出ていく企画に対して、あえて「来てもらう企画」をしてみようか。閉校式後に一度集まる企画など。（例：卒業生の近況報告会）

議長

しばらく経って戻って来るときに、熱いものが生まれるのではないか。生徒たちの充実した学校生活には、先生方の意欲が欠かせない。すべては生徒たちのために。

教職員

生徒は、普段関わらない人と接することでいい緊張感の中、さまざまな感情を抱いて、成長してくれていると感じる。生徒のコミュニケーションチャンネルは確実に増えている。より多くの人と関わる経験をさせることを、今後も大切にしたい。

5. 謝辞（校長より）

議決事項

本日の協議内容を今後の活動に生かし、さらに生徒たちのために、先生方の団結力をもって取り組んでいきます。

次回 第2回学校運営協議会 11月7日（木） 15:30～